

④データ駆動型土づくり推進

【令和7年度予算概算決定額 108（-）百万円】

＜対策のポイント＞

堆肥の施用量の減少等により、農地土壌の劣化がみられる中、簡便な処方箋サービスの創出に向けたAIによる土壌診断技術の開発、実証等を支援し、科学的データに基づく土づくりを推進する環境を整備します。

＜事業目標＞

スマート農業技術の活用割合を50%に向上 [令和12年まで]

＜事業の内容＞

みどりの食料システム戦略において化学肥料の低減が求められている中で、適切な土壌管理に基づく土づくりの推進のため、現場で実用可能な土壌診断技術の創出を支援します。

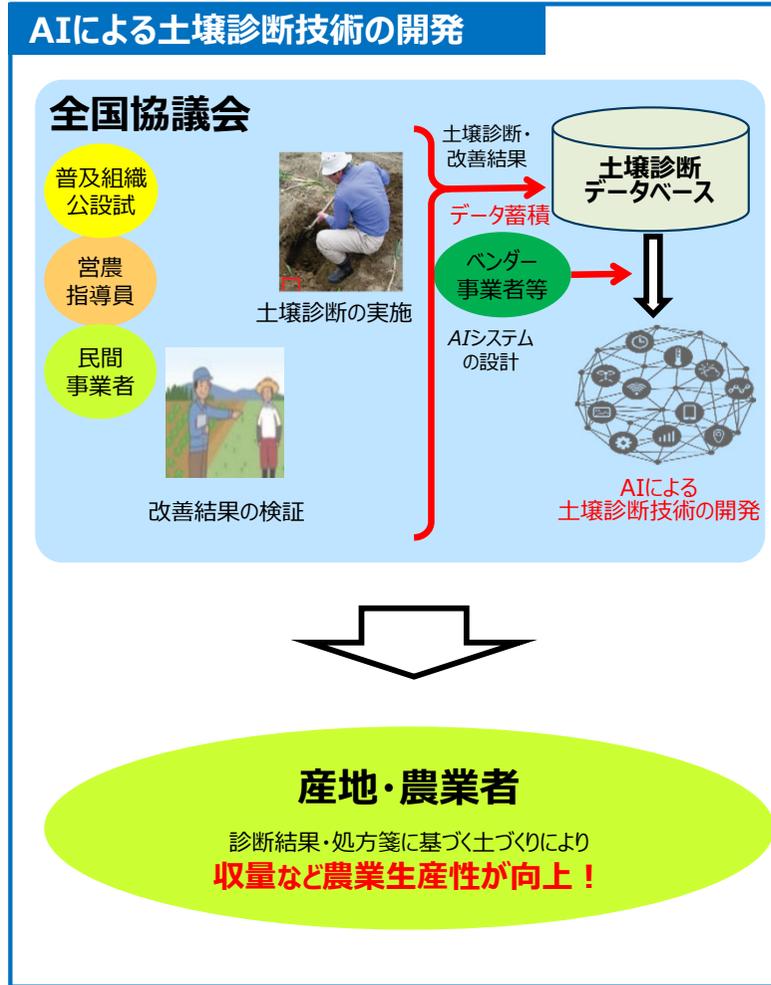
AIによる土壌診断技術の開発

収量向上等に向けた土壌診断を通じた土づくりの取組拡大を図るため、土壌分析・診断の実施と改善効果の検証を実施し、これらの土壌診断結果を土壌診断データベースへ蓄積するとともに、簡便な処方箋サービスを創出するためのAIによる土壌診断技術の開発、実証等の取組を支援します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



科学的データに基づく
土づくりを推進する環境を整備